

⑦ 中高 保健体育問題の解答について (注意)

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。(マークシート右上の記入方法を参照) 消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「保健体育」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入 ア. 小問の解答番号は1から60までの通し番号になっており、例えば、25番を

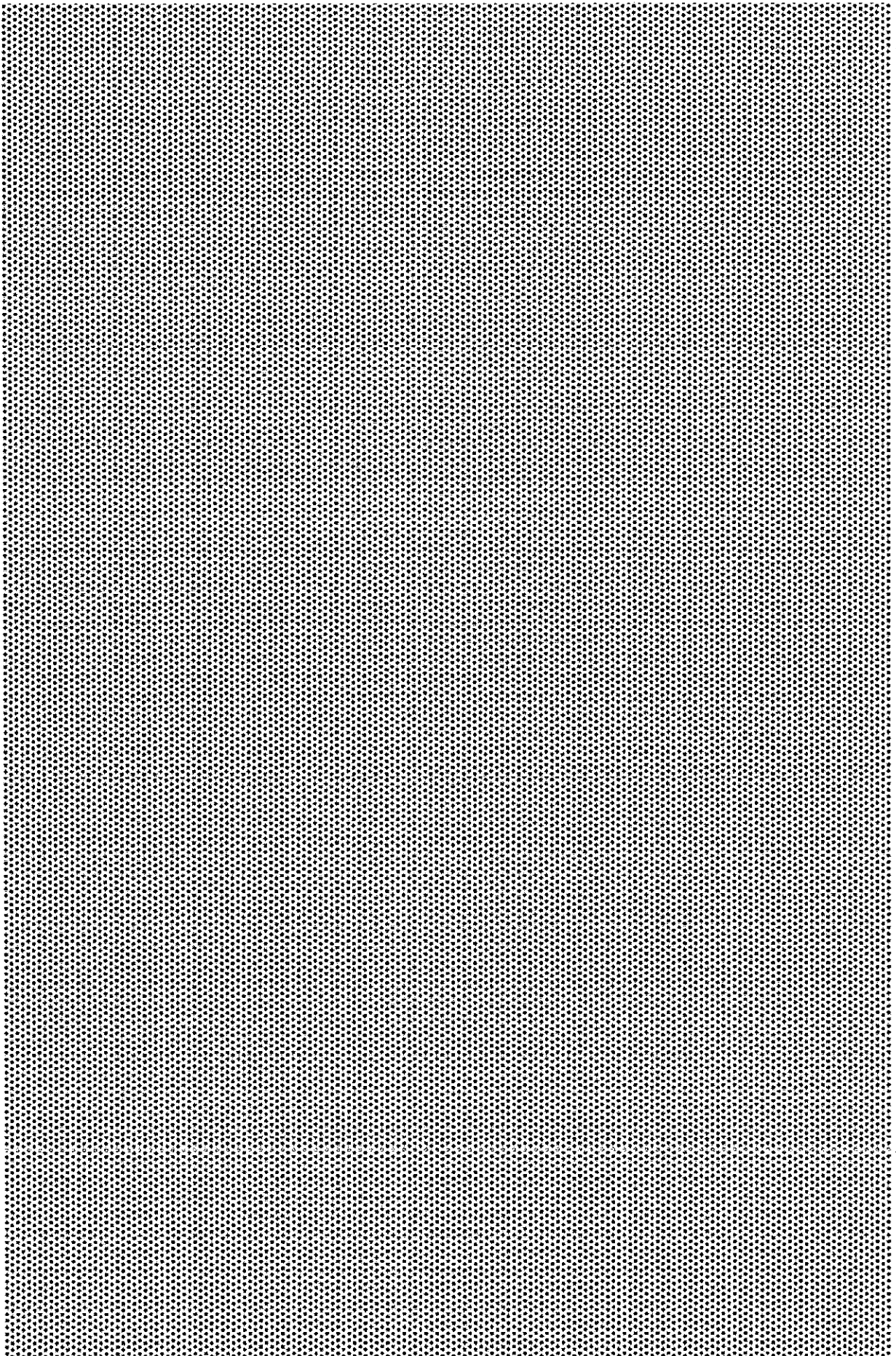
25

 のように表示してある。
イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

(マークシート記入例)

フリガナ	コウベタロウ	教科名	保健体育
名 前	神 戸 太 郎		

受験番号					小問 番号	解答記入欄 1 ~ 25	小問 番号	解答記入欄 26 ~ 50	小問 番号	解答
1 2 3 4 0					1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	26	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	51	0 0 0 0
0 0 0 0 0					2	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	52	0 0 0 0
0 0 0 0 0					3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	53	0 0 0 0
0 0 0 0 0					4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	54	0 0 0 0
0 0 0 0 0					5	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	55	0 0 0 0
0 0 0 0 0					6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	56	0 0 0 0
0 0 0 0 0					7	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	57	0 0 0 0
0 0 0 0 0					8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	58	0 0 0 0
0 0 0 0 0					9	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	59	0 0 0 0
0 0 0 0 0					10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	60	0 0 0 0
0 0 0 0 0					11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	61	0 0 0 0



【1】 次の問いに答えよ。

(1) 「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における「第2章 道徳教育の目標」に関する記述のうち、適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。（*は、中学校・特別支援学校中学部）

- ① 道徳科が目指すものは、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標と同様によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことである。
- ② 道徳科の指導の際には、特定の道徳的価値を絶対的なものとして指導したり、本来実感を伴って理解すべき道徳的価値のよさや大切さを観念的に理解させたりする学習に終始することのないように配慮することが大切である。
- ③ 児童（*生徒）が今後、様々な問題場面に会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的实践を行うためには、道徳的価値の意義及びその大切さの理解が必要になる。
- ④ 自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うには、道徳的価値について理解する学習を欠くことはできない。
- ⑤ 道徳的实践意欲は、それぞれの場面において善悪を判断する能力である。つまり、人間として生きるために道徳的価値が大切なことを理解し、様々な状況下において人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力である。

- (2) 次の文は、「小学校（中学校）学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月 文部科学省）における「第4章 指導計画の作成と内容の取扱い」に関する記述の一部である。（ア）～（ウ）にあてはまる適切な語句の組合わせを①～⑤から選び、番号で答えよ。

〈小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編〉

道徳科の指導体制を充実するための方策としては、まず、全てを学級担任任せにするのではなく、特に効果的と考えられる場合は、道徳科における実際の指導において他の教師などの協力を得ることが考えられる。校長や教頭などの参加による指導、他の教職員との（ア）などの協力的な指導、校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の（イ）を生かした指導を行うことなど、学校の教職員が協力して指導に当たることができるような年間指導計画を工夫することなどを、学校としての方針の下に（ウ）が中心となって進めることが大切である。なお、校長等が授業に参加する際は、道徳科の特質を十分に理解して臨む必要がある。いずれの場合においても、授業にねらいをもたせ計画的に行われなければならない。

〈中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編〉

道徳科の指導体制を充実するための方策としては、全てを学級担任任せにするのではなく、特に効果的と考えられる場合は、道徳科の実際の指導において他の教師などの協力を得ることが考えられる。校長や教頭などの参加による指導、他の教職員との（ア）などの協力的な指導、校長をはじめとする管理職や他の教員が自分の（イ）を生かした指導などにより、学校の教職員が協力して指導に当たることができるような年間指導計画を工夫するなどを、学校としての方針の下に（ウ）が中心となって進めることが大切である。また、複数の教職員による学年全体での授業等も考えられる。なお、校長等が授業に参加する際は、道徳科の特質を十分に理解して臨む必要がある。いずれの場合においても、授業にねらいをもたせ計画的に行われなければならない。

- | | | |
|-------------------|----------|--------------|
| ① （ア） ティーム・ティーチング | （イ） 得意分野 | （ウ） 道徳教育推進教師 |
| ② （ア） ティーム・ティーチング | （イ） 経験 | （ウ） 管理職 |
| ③ （ア） ティーム・ティーチング | （イ） 経験 | （ウ） 道徳教育推進教師 |
| ④ （ア） 話し合い | （イ） 得意分野 | （ウ） 道徳教育推進教師 |
| ⑤ （ア） 話し合い | （イ） 経験 | （ウ） 管理職 |

(3)「小学校(中学校)学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」(平成29年告示 文部科学省)「第3章 道徳科の内容」では、道徳教育の目標を達成するために指導すべき内容項目を、四つの視点から分類整理している。次の内容項目ア、イと四つの視点A～Dの正しい組合わせを①～⑤から選び、番号で答えよ。

内容項目

ア 家族愛, 家庭生活の充実

イ 感動, 畏敬の念

四つの視点

A 主として自分自身に関すること

B 主として人との関わりに関すること

C 主として集団や社会との関わりに関すること

D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること

- ① アーA イーB
- ② アーB イーA
- ③ アーB イーD
- ④ アーC イーA
- ⑤ アーC イーD

【2】「中学校学習指導要領解説 保健体育編」（平成29年7月 文部科学省）に関する内容について、次の問に答えよ。

(1) 次の文は、「保健体育科改訂の要点」に関する記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体育分野においては、育成を目指す資質・能力を明確にし、生涯にわたって（ア）を実現する資質・能力を育成することができるよう、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の育成を重視し、目標及び内容の構造の見直しを図ること。

「カリキュラム・マネジメント」の実現及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する観点から、（イ）のまとまりを考慮し、各領域で身に付けさせたい具体的な内容の系統性を踏まえた指導内容の一層の充実を図るとともに、保健分野との一層の関連を図った指導の充実を図ること。

運動やスポーツとの多様な関わり方を重視する観点から、体力や技能の程度、性別や障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう指導内容の充実を図ること。その際、（ウ）を重視して改善を図ること。

- | | | | | | | |
|---|---|------------|---|-------|---|---------|
| ① | ア | 豊かなスポーツライフ | イ | 発達の段階 | ウ | 共生の視点 |
| ② | ア | 多様なスポーツライフ | イ | 発達の段階 | ウ | 共生の視点 |
| ③ | ア | 豊かなスポーツライフ | イ | 発達の段階 | ウ | インクルーシブ |
| ④ | ア | 多様なスポーツライフ | イ | 学年段階 | ウ | 共生の視点 |
| ⑤ | ア | 豊かなスポーツライフ | イ | 学年段階 | ウ | インクルーシブ |

- (2) 次の文は、「保健体育科改訂の要点」に関する記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

3年間の見通しをもった年間指導計画の作成及び指導計画の実施・評価・改善等を重視した「カリキュラム・マネジメント」を実現する観点及び「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する観点から、小学校から高等学校までの12年間を見通して、各種の運動の(ア)時期、多くの領域の学習を経験する時期、卒業後も運動やスポーツに(イ)関わるができるようにする時期といった発達の段階のまとまりを踏まえ、小学校段階との接続及び高等学校への(ウ)を重視し、系統性を踏まえた指導内容の見直しを図ることとした。

- | | | | | | | |
|---|---|----------|---|-------|---|-----|
| ① | ア | 基本を身に付ける | イ | 多様な形で | ウ | 発展 |
| ② | ア | 基礎を培う | イ | 多様な形で | ウ | 見通し |
| ③ | ア | 基本を身に付ける | イ | 主体的に | ウ | 発展 |
| ④ | ア | 基本を身に付ける | イ | 主体的に | ウ | 見通し |
| ⑤ | ア | 基礎を培う | イ | 主体的に | ウ | 発展 |

5

- (3) 次の文は、「保健体育科改訂の要点」に関する記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

障害の(ア)等にかかわらず運動やスポーツに親しむ資質・能力を育成するため、特別な(イ)を要する生徒への手立て、共生の視点に基づく各領域における指導の充実、(ウ)の推進などについて、「学びに向かう力、人間性等」の指導内容及び「指導計画の作成と内容の取扱い」に新たに示した。

- | | | | | | | |
|---|---|----|---|----|---|------|
| ① | ア | 有無 | イ | 支援 | ウ | 男女別習 |
| ② | ア | 有無 | イ | 配慮 | ウ | 男女共習 |
| ③ | ア | 程度 | イ | 配慮 | ウ | 男女共習 |
| ④ | ア | 有無 | イ | 配慮 | ウ | 男女別習 |
| ⑤ | ア | 程度 | イ | 支援 | ウ | 男女共習 |

6

- (4) 次の文は、「保健体育科改訂の要点」に関する記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進に向けて、必要に応じて、地域の人的・物的（ア）等の活用を検討することも大切である。特に、障害のある生徒等への支援や（イ）へのつながりを充実する観点から、（ウ）な地域等の人的・物的（ア）等との連携を図り、指導の充実につなげることが学校と社会をつなぐ「カリキュラム・マネジメント」として大切である。

- ① ア 環境 イ 実生活 ウ 活用可能
- ② ア 環境 イ 社会生活 ウ 活用可能
- ③ ア 資源 イ 社会生活 ウ 持続可能
- ④ ア 資源 イ 実生活 ウ 持続可能
- ⑤ ア 資源 イ 実生活 ウ 活用可能

7

- (5) 次の文は、「保健体育科の目標及び内容」における、保健の見方・考え方についての記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

保健の見方・考え方については、疾病や傷害を防止するとともに、（ア）や生きがいを重視した健康に関する観点を踏まえ、「個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する（イ）に着目して捉え、疾病等のリスクの軽減や（ア）の向上、健康を支える（ウ）と関連付けること」であると考えられる。

- ① ア 生活環境 イ 原則や概念 ウ 環境づくり
- ② ア 生活の質 イ 原理や知識 ウ 施設や制度
- ③ ア 生活の質 イ 原則や概念 ウ 環境づくり
- ④ ア 生活環境 イ 原理や知識 ウ 環境づくり
- ⑤ ア 生活環境 イ 原則や概念 ウ 施設や制度

8

- (6) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における、障害のある生徒などについての指導に関する記述の一部である。文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

指導に当たっては、生徒の障害の種類と程度を家庭、（ア）等と連絡を密にしながら的確に把握し、生徒の健康・安全の確保に十分留意するとともに、個別の課題設定をして生活上の困難を（イ）ために学習に配慮したり、教材、練習やゲーム及び試合や発表の仕方等を検討し、（ウ）にかかわらず、参加可能な学習の機会を設けたりするなどの生徒の実態に応じたきめ細やかな指導に配慮することが大切である。

- ① ア 専門医 イ 克服する ウ 障害の有無
- ② ア 専門医 イ 回避する ウ 障害の有無
- ③ ア 保健士 イ 克服する ウ 障害の程度
- ④ ア 保健士 イ 回避する ウ 障害の程度
- ⑤ ア 保健士 イ 回避する ウ 障害の有無

9

- (7) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における情報手段の積極的な活用についての記述の一部である。文中の（ア）～（エ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体育分野においては、学習に必要な情報の収集やデータの（ア）、課題の発見や解決方法の選択などにおけるICTの活用が考えられる。また、保健分野においては、健康情報の収集、健康課題の発見や解決方法の（イ）における情報通信ネットワーク等の活用などが考えられる。

なお、運動の実践では、補助的手段として活用するとともに、効果的なソフトやプログラムの活用を図るなど、（ウ）の低下を招かないよう留意することが大切である。

また、情報機器の使用と（エ）との関わりについて取り扱うことにも配慮することが大切である。

- ① ア 管理・分析 イ 選択 ウ 活動そのもの エ 健康
- ② ア 管理・分析 イ 選択 ウ 運動機能 エ 運動
- ③ ア 管理・分析 イ 検索 ウ 活動そのもの エ 健康
- ④ ア 解析・保管 イ 検索 ウ 活動そのもの エ 運動
- ⑤ ア 解析・保管 イ 選択 ウ 運動機能 エ 健康

10

- (8) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における体育分野におけるスポーツとの多様な関わり方についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実を図る観点から、パラリンピック競技大会で実施されている種目などの障害者スポーツを体験するなどの工夫も考えられる。その際、障害の(ア)にかかわらず、全ての生徒が実施可能な体験となるように留意することが大切である。

また、このような体験活動を効果的に実施していくためには、その(イ)について家庭や地域と共有し、(ウ)することが重要である。さらに、これらの学習を展開するに当たっては、学習の内容と生徒の(エ)に応じて安全への配慮を十分に行わなければならない。

- | | | | |
|-----------|---------|---------|---------|
| ① ア 有無や種別 | イ 目的や方法 | ウ 連携・協働 | エ 興味・関心 |
| ② ア 程度や特性 | イ 意義や効果 | ウ 連携・協働 | エ 発達の段階 |
| ③ ア 程度や特性 | イ 意義や効果 | ウ 連携・協働 | エ 興味・関心 |
| ④ ア 有無や種別 | イ 意義や効果 | ウ 協力・参画 | エ 発達の段階 |
| ⑤ ア 程度や特性 | イ 目的や方法 | ウ 協力・参画 | エ 興味・関心 |

11

- (9) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善についての記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

運動の楽しさや健康の意義等を発見し、運動や健康についての興味や関心を高め、課題の解決に向けて(ア)自ら取り組み、学習を振り返るとともにそれを考察し、課題を修正したり新たな課題を設定したりするなどの主体的な学びを促すこと。

運動や健康についての課題の解決に向けて、生徒が他者(書物等を含む)との対話を通して、自己の(イ)、課題の解決を目指して学習に取り組むなどの対話的な学びを促すこと。

習得・活用・探究という学びの過程を通して、自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて(ウ)ながら、思考を深め、よりよく解決するなどの深い学びを促すこと。

- | | | |
|-------------|------------|-----------|
| ① ア 自主的・主体的 | イ 思考を広げ深め | ウ 試行錯誤を重ね |
| ② ア 自主的・主体的 | イ 思考を広げ深め | ウ 仲間と協力し |
| ③ ア 粘り強く | イ 思考を広げ深め | ウ 試行錯誤を重ね |
| ④ ア 粘り強く | イ 考えを他と交流し | ウ 試行錯誤を重ね |
| ⑤ ア 自主的・主体的 | イ 考えを他と交流し | ウ 仲間と協力し |

12

- (10) 次の文は、「指導計画の作成と内容の取扱い」における授業時数の配当についての記述の一部である。
文中の（ア）～（ウ）にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

各領域に対する授業時数の配当をどのようにするかは、それぞれの領域について、どの程度（ア）かが重要な目安となる。また、その領域が、小学校から引き続いて学習する領域か、中学校で初めて取り上げる領域であるかを考慮に入れて授業時数の適切な配当を考える必要がある。したがって、学校や地域の実態はもとより、（イ）の視点及び主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点を踏まえ、生徒の（ウ）、興味・関心等に応じて、体育分野で育成を目指す資質・能力を効果的に育成することができるよう、３年間を見通した年間計画の作成が極めて重要となる。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|---------------|---|-------|
| ① | ア | 成果を残す | イ | カリキュラム・マネジメント | ウ | 能力・適性 |
| ② | ア | 成果を残す | イ | カリキュラム・マネジメント | ウ | 資質・努力 |
| ③ | ア | 習熟を図る | イ | カリキュラム・マネジメント | ウ | 能力・適性 |
| ④ | ア | 習熟を図る | イ | メディカル・マネジメント | ウ | 資質・努力 |
| ⑤ | ア | 習熟を図る | イ | メディカル・マネジメント | ウ | 能力・適性 |

【3】「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)に関する内容について、次の問に答えよ。

(1) 次の文は、体育と保健の関連についての記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

体育の「A体づくり運動」のア「体はぐしの運動」では具体的な運動の視点から、保健の(1)「現代社会と健康」のア(イ)「精神疾患の予防と回復」では(ア)の視点から、それぞれ取り上げているので、この点を十分考慮して関連のある指導を工夫する。

体育の「H 体育理論」の2「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」では健康の保持増進を図るための方法等の視点から、保健の(1)「現代社会と健康」では生活習慣病などの(イ)の視点から日常生活にスポーツを計画的に取り入れることの重要性について、それぞれ取り上げているので、この点を十分考慮して関連のある指導を工夫する。

体育の「A体づくり運動」から「Gダンス」の(3) 学びに向かう力、人間性等の「健康・安全」では運動実践の場面での行動の視点から、保健の(4)「健康を支える環境づくり」では地域の(ウ)の活用の視点から、生涯スポーツの実践を支える環境づくりやその活用について、それぞれ取り上げているので、この点を十分考慮して関連のある指導を工夫する。

- | | | |
|--------------|---------|------------|
| ① ア 精神疾患への対処 | イ 治療と改善 | ウ 社会福祉センター |
| ② ア 精神疾患の治療 | イ 予防と回復 | ウ 保健・医療機関 |
| ③ ア 精神疾患への対処 | イ 治療と改善 | ウ 保健・医療機関 |
| ④ ア 精神疾患への対処 | イ 予防と回復 | ウ 保健・医療機関 |
| ⑤ ア 精神疾患の治療 | イ 予防と回復 | ウ 社会福祉センター |

- (2) 次の文は、言語活動についての記述の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

言語能力を育成する言語活動を重視し、筋道を立てて練習や(ア)について話し合ったり身振りや身体を使って動きの修正を図ったりする活動や、個人及び(イ)における健康の保持増進や回復について話し合う活動などを通して、コミュニケーション能力や論理的な(ウ)の育成を促し、主体的な学習活動の充実を図ること。

- ① ア 戦術 イ 社会生活 ウ 思考力
- ② ア 作戦 イ 学校生活 ウ 思考力
- ③ ア 戦術 イ 学校生活 ウ 表現力
- ④ ア 戦術 イ 社会生活 ウ 表現力
- ⑤ ア 作戦 イ 社会生活 ウ 思考力

15

- (3) 次の文は、「体育」と「保健」の授業時数等の配当についての記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

「体育」の単位数は、従前どおり、標準単位数を(ア)としている。

「体育」の単位数の各年次別の配当については、各年次継続して履修できるようにするとともに、各年次になるべく均分して配当することとしている。これは、知・徳・体の調和のとれた教育課程を編成するという観点と総則に示す「健やかな体」で求めている体力の向上、健康の保持増進、さらには、(イ)における適切な体育的活動の実践を促すという観点などによるものである。

「保健」の標準単位数は、従前と同様(ウ)となっている。

「保健」の年間指導計画については、課程の種別にかかわらず、原則として入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させるよう作成しなければならない。

なお、「入学年次及びその次の年次の2か年にわたり履修させる」こととしたのは、高等学校においてもできるだけ長い期間継続して学習し、健康や安全についての興味・関心や意欲を持続させ、生涯にわたって(エ)を送るための基礎となるよう配慮したものである。

- ① ア 7～8 イ 社会生活 ウ 2単位 エ 健康で安全な生活
- ② ア 6～8 イ 社会生活 ウ 3単位 エ 合理的で安定した生活
- ③ ア 7～8 イ 日常生活 ウ 2単位 エ 合理的で安定した生活
- ④ ア 7～8 イ 日常生活 ウ 2単位 エ 健康で安全な生活
- ⑤ ア 6～8 イ 日常生活 ウ 3単位 エ 健康で安全な生活

16

【4】保健分野に関する内容について、次の問に答えなさい。

- (1) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、生殖に関わる機能の成熟に関する記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

思春期には、下垂体から分泌される(ア)の働きにより生殖器の発育とともに生殖機能が発達し、男子では射精、女子では月経が見られ、妊娠が可能となることを理解できるようにする。また、身体的な成熟に伴う性的な発達に対応し、個人差はあるものの、性衝動が生じたり、異性への関心などが高まったりすることなどから、(イ)、性情報への対処など性に関する適切な態度や(ウ)が必要となることを理解できるようにする。

なお、指導に当たっては、発達の段階を踏まえること、学校全体で共通理解を図ること、保護者の(エ)を得ることなどに配慮することが大切である。

- | | | | | | | | |
|-----|----------|---|-------|---|-------|---|----|
| ① ア | 性腺刺激ホルモン | イ | 異性の尊重 | ウ | 行動の選択 | エ | 理解 |
| ② ア | 性腺刺激ホルモン | イ | 異性の尊重 | ウ | 意思決定 | エ | 協力 |
| ③ ア | 成長ホルモン | イ | 異性の理解 | ウ | 行動の選択 | エ | 理解 |
| ④ ア | 性腺刺激ホルモン | イ | 異性の理解 | ウ | 行動の選択 | エ | 協力 |
| ⑤ ア | 成長ホルモン | イ | 異性の尊重 | ウ | 意思決定 | エ | 理解 |

- (2) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、感染症の予防に関する記述の一部である。文中の(ア)～(エ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

感染症は、病原体が環境を通じて主体へ感染することで起こる疾病であり、適切な対策を講ずることにより感染のリスクを軽減することができることを、例えば、結核、コレラ、ノロウイルスによる(ア)、麻疹、風疹などを適宜取り上げ理解できるようにする。

感染症を予防するには、消毒や殺菌等により(イ)をなくすこと、周囲の環境を衛生的に保つことにより感染経路を遮断すること、栄養状態を良好にしたり、予防接種の実施により免疫を付けたりするなど身体の(ウ)を高めることが有効であることを理解できるようにする。また、感染症にかかった場合は、疾病から(エ)ことはもちろん、周囲に感染を広げないためにも、できるだけ早く適切な治療を受けることが重要であることを理解できるようにする。

- | | | | | | | | | |
|---|---|--------|---|-----|---|-----|---|------|
| ① | ア | 感染性虫垂炎 | イ | 発生源 | ウ | 栄養力 | エ | 改善する |
| ② | ア | 感染性胃腸炎 | イ | 汚染源 | ウ | 抵抗力 | エ | 改善する |
| ③ | ア | 感染性虫垂炎 | イ | 発生源 | ウ | 栄養力 | エ | 回復する |
| ④ | ア | 感染性胃腸炎 | イ | 発生源 | ウ | 抵抗力 | エ | 回復する |
| ⑤ | ア | 感染性虫垂炎 | イ | 汚染源 | ウ | 抵抗力 | エ | 改善する |

- (3) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における、健康と環境の思考力、判断力、表現力等の例示の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

健康と環境に関わる原則や概念を基に、収集した情報を整理したり、習得した知識を(ア)と関連付けたりして、自他の課題を発見すること。

身体の環境に対する適応能力・至適範囲について、習得した知識を自他の生活に(イ)したり、課題解決に役立てたりして、熱中症などになるリスクを軽減し、健康を保持増進する方法を見いだすこと。

飲料水や空気の(ウ)や廃棄物の(ウ)について、習得した知識と自他を取り巻く環境とを関連付けたり、整理したりして、疾病等にかかるリスクを軽減し健康を保持増進する方法を選択すること。

- | | | | | | | |
|---|---|------|---|----|---|-------|
| ① | ア | 社会生活 | イ | 適用 | ウ | 環境基準 |
| ② | ア | 個人生活 | イ | 応用 | ウ | 衛生的管理 |
| ③ | ア | 個人生活 | イ | 適用 | ウ | 衛生的管理 |
| ④ | ア | 個人生活 | イ | 応用 | ウ | 環境基準 |
| ⑤ | ア | 社会生活 | イ | 適用 | ウ | 衛生的管理 |

- (4) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)における、安全な社会生活の思考力、判断力、表現力等の例示の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

安全な社会生活における事象や情報などについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を(ア)こと。

安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に(イ)こと。

交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を(ウ)こと。

- ① ア 解決する イ 応用する ウ 評価する
- ② ア 解決する イ 応用する ウ 推進する
- ③ ア 発見する イ 適用する ウ 推進する
- ④ ア 解決する イ 適用する ウ 評価する
- ⑤ ア 発見する イ 応用する ウ 評価する

20

- (5) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)における、健康を支える環境づくりの思考力、判断力、表現力等の例示の一部である。文中の(ア)～(ウ)にあてはまる語句の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を(ア)こと。

ヘルスプロモーションの考え方に基づいた、健康に関する環境づくりへ積極的に参加していくために、適切な情報を選択・収集して、(イ)し計画を立てること。

健康を支える環境づくりについて、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、(ウ)説明すること。

- ① ア 整理する イ 分析・評価 ウ 筋道を立てて
- ② ア 整理する イ 分析・評価 ウ 論理的に
- ③ ア 整理する イ 確認・応用 ウ 筋道を立てて
- ④ ア 活用する イ 確認・応用 ウ 論理的に
- ⑤ ア 活用する イ 分析・評価 ウ 筋道を立てて

21

- (6) 次の文は、RICE法による応急手当について説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

捻挫や打撲、肉離れなどでは、動かすと痛んだり、内出血や腫れがひどくなったりするので、安静（Rest）にする。副木やテーピングなどで固定する。冷却（Ice）では、血流が減少し、内出血や腫れがおさえられる。痛みをやわらげる効果もある。a 5～10分間を目安に冷やす。冷やしすぎによる凍傷に注意する。圧迫（Compression）では、b 伸縮しない包帯などで軽く圧迫しながら巻くことで、内出血や腫れを抑える。関節などで、へこんでいて圧迫しにくい部分にはパッドを当てるなどして、その上から包帯などで圧迫する。挙上（Elevation）では、心臓より高く挙上することで、痛めた部分に流れる血液量を少なくすることができ、c 内出血や腫れをおさえることができる。

- ① a ○ b ○ c ×
② a × b × c ○
③ a ○ b ○ c ○
④ a ○ b × c ×
⑤ a × b ○ c ×

22

- (7) 次の文は、ストレスへの対処方法について説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

気分転換のために一人でできる対処には、趣味の活動や、a 体の動きを高める運動、b ノーマライゼーションなどの方法がある。物事の見方、考え方、受け止め方を見直すことも、ストレス対処の方法である。また、c 規則正しい生活を送ることも、心身をストレスから守ることにつながる。

- ① a ○ b ○ c ○
② a ○ b ○ c ×
③ a ○ b × c ○
④ a × b ○ c ×
⑤ a × b × c ○

23

- (8) 次の文は、生活習慣病の一次予防、二次予防、三次予防について説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

生活習慣病の予防として、一次予防とは、健康的な生活習慣を続けることによって、発病のリスクを減らしていくことである。生活習慣は、a 壮年期から確立し、生涯継続していくことが多いことから、運動やスポーツを日常的に行うなど、健康的な生活習慣を確立していくことに意義がある。二次予防とは、病気を早期に発見し、早期に治療することである。定期的な、b 健康相談により、早期発見・早期治療をすれば、重症にならなかつたり健康を取り戻したりすることができる。三次予防では、病気が軽度の場合は生活習慣を健康的なものにする指導を、中等度から重度になると、生活習慣についての指導に加え医薬品による治療も施される。また、重症化した病気から社会復帰するための治療や運動指導などの、c リスクコミュニケーションを行う。

- ① a ○ b ○ c ×
 ② a × b × c ○
 ③ a ○ b ○ c ○
 ④ a × b × c ×
 ⑤ a × b ○ c ×

24

- (9) 次の文は、精神疾患について説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

うつ病は、憂うつで悲しく落ち込んだ抑うつ気分と、興味や喜びの減退を感じるものが特徴的である。うつ状態と躁状態が繰り返される場合には、a 躁うつ病と呼び、うつ病とは区別される。

総合失調症は、おもに、b 思春期・青年期に発病し、幻覚や妄想などの特徴的な症状のほか、意欲や生き生きとした感情が乏しくなる。

不安症は、人前で行動したり他者に注視されたりする場面で、強い恐怖や不安が生じる。c 社交不安症やパニック症などがある。

- ① a ○ b ○ c ×
 ② a × b × c ○
 ③ a ○ b ○ c ○
 ④ a × b × c ×
 ⑤ a × b ○ c ×

25

- (10) 次の文は、健康的な職業生活について説明したものである。下線部の a～c の正誤の適切な組合せを ①～⑤から選び、番号で答えよ。

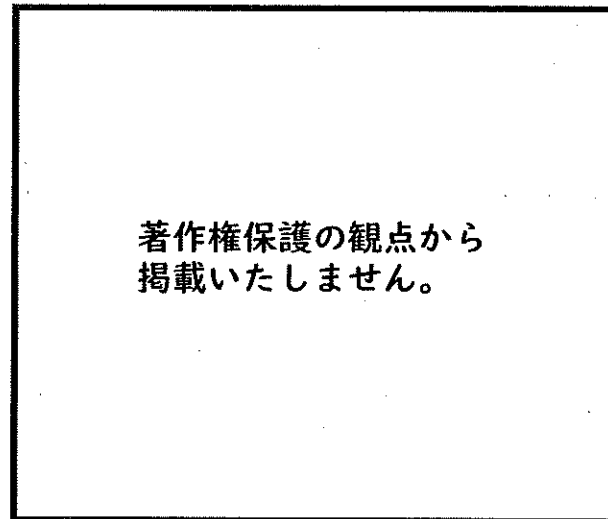
職場全体で心と体の両面から総合的に健康づくりを進める「心とからだの健康づくり」のことを、
a トータル・ヘルスプロモーション・プランという。

職場においては、ストレスチェック制度による働く人のストレスに対する気づきへの援助、心身の緊張を解きほぐすリラクセーションの指導など、心の健康づくりである b メンタルヘルスケアが進められている。

ハラスメント対策も行われており、セクシュアルハラスメントだけでなく、同じ職場で働く人に対して、地位や人間関係などの優位性を利用して業務の範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与えるパワーハラスメントへの対策も行われている。しかし、能力とかけ離れた程度の低い仕事を命じること、は c パワーハラスメントには含まれない。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ○ | b | ○ | c | × |
| ② | a | × | b | × | c | ○ |
| ③ | a | ○ | b | ○ | c | ○ |
| ④ | a | × | b | × | c | × |
| ⑤ | a | × | b | ○ | c | × |

- (11) 次の図は、心肺蘇生のために胸骨を圧迫する場所を示したものである。圧迫の仕方についての説明として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。



- ① 圧迫する際には、図のアの部分に手を置いて行う。
- ② 肋骨の骨折を防ぐため、手の基部にだけ力が加わるよう、指を組む。
- ③ 両肘を伸ばしたまま、組んだ手をしっかり見て、垂直に体重をかける。
- ④ 傷病者が成人であれば、胸骨が少なくとも5 cm以上沈むくらいまで押す。
- ⑤ 圧迫は1分間に100回以上の速さで行う。

- (12) 次の図は、「令和4年（2022）人口動態統計月報年計（概数）の概況」（厚生労働省）で示されている、主な死因別にみた死亡率の年次推移を表したグラフである。ア～エにあてはまるものの適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|---|-------|---|-------|---|-------|
| ① | ア | 脳血管疾患 | イ | 老衰 | ウ | 悪性新生物 | エ | 心疾患 |
| ② | ア | 悪性新生物 | イ | 心疾患 | ウ | 老衰 | エ | 脳血管疾患 |
| ③ | ア | 悪性新生物 | イ | 心疾患 | ウ | 脳血管疾患 | エ | 老衰 |
| ④ | ア | 脳血管疾患 | イ | 悪性新生物 | ウ | 心疾患 | エ | 老衰 |
| ⑤ | ア | 悪性新生物 | イ | 脳血管疾患 | ウ | 老衰 | エ | 心疾患 |

(13) 次の図は、がん検診の様子である。国が推奨しているがん検診の対象年齢と検診間隔について説明している適切な文を①～⑤から選び、番号で答えよ。



- ① 胃がん検診は、50歳以上の男女を対象に、年に1回の検診を推奨している。
- ② 大腸がん検診は、40歳以上の男女を対象に、2年に1回の検診を推奨している。
- ③ 肺がん検診は、40歳以上の男女を対象に、年に1回の検診を推奨している。
- ④ 乳がん検診は、30歳以上の女性を対象に、2年に1回の検診を推奨している。
- ⑤ 子宮頸がん検診は、20歳以上の女性を対象に、年に1回の検診を推奨している。

- (14) 次の図表は、「令和4年における 組織犯罪の情勢」(警察庁)における大麻乱用者の実態について示したものである。その説明として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- ① 初回使用年齢層の構成比を平成29年と比較すると、20歳未満が36.4%から52.1%に増加しており、若年層の中でも特に20歳未満での乱用拡大が懸念される。
- ② 使用した動機については、いずれの年齢層でも「好奇心・興味本位」が最多である。
- ③ 若年層では、身近な環境に影響を受けて享乐的に大麻を使用する傾向がうかがわれる。
- ④ 大麻に対する危険(有害)性の認識は、覚醒剤に対する危険(有害)性の認識と比較すると、著しく低い。
- ⑤ 大麻を初めて使用した経緯は、「誘われて」が最多であり、特に30歳以上において誘われて使用する割合が高い。

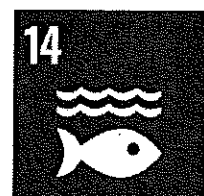
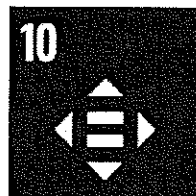
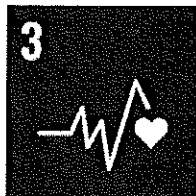
- (15) 次の図は、「全国の精神科医療施設における薬物関連精神疾患の実態調査」(厚生労働省)における、1年以内に症例があった主な使用薬物の推移のグラフである。その説明として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- ① 覚醒剤は、2014年以降増加し、現在も一番割合が高い。
- ② 睡眠薬・抗不安薬は、2014年から増え続け、現在は横ばい傾向である。
- ③ 危険ドラッグは、2014年以降下降傾向であったが、近年大麻グミなどにより増加に転じている。
- ④ 近年では、市販薬の割合が増加傾向である。
- ⑤ 大麻はゆるやかな増加傾向であり、現在では横ばい傾向にある。

31

- (16) 次の図は、SDGsの17のゴールのうち5つを示したものである。番号と目標を示す言葉が適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。



- ① 2：貧困をなくそう
- ② 3：質の良い教育をみんなに
- ③ 10：人や国の不平等をなくそう
- ④ 12：住み続けられるまちづくりを
- ⑤ 14：気候変動に具体的な対策を

32

(17) 次の図は、性感染症である梅毒とエイズの感染者数の推移を示したグラフである。

その説明として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- ① 梅毒による感染者も、HIV感染者（新規報告数）も、両方とも増加傾向にある。
- ② 梅毒による感染者は、女性よりも、男性の方が、人数が多い。
- ③ 梅毒による感染者は、20代が他の年代に比べて多い。
- ④ HIV感染者もエイズ患者も近年減少傾向ではあるが、累計では増加傾向にある。
- ⑤ HIV感染者は、エイズ患者よりも報告者数が多い。

【5】 体育分野に関する内容について、次の問に答えなさい。

(1) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容における、第1学年及び第2学年の体づくり運動の例示についての記述の一部である。体の動きを高める運動の行い方の例として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① いろいろなフォームで様々な用具を用いて、タイミングよく跳んだり転がしたりすること。
- ② 大きな動作で、ボールなどの用具を、力を調整して投げたり受けたりすること。
- ③ 人と組んだり、用具を利用したりしてバランスを保持すること。
- ④ 床やグラウンドに設定した様々な空間をリズムカルに歩いたり、走ったり、跳んだり、素早く移動したりすること。
- ⑤ いろいろな条件で、歩いたり走ったり跳びはねたりする運動を行うことを通して、気付いたり関わり合ったりすること。

34

(2) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容における、体づくり運動の「学び向かう力、人間性等」の例示についての記述の一部である。第3学年の例示として適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとすること。
- ② 仲間に課題を伝え合うなど、互いに助け合い教え合おうとすること。
- ③ 一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする事。
- ④ ねらいに応じた行い方などについての話合いに参加しようとする事。
- ⑤ 健康・安全に留意すること。

35

(3) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)に関する内容における、器械運動の「思考力、判断力、表現力等」の例示についての記述である。第1学年及び第2学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えること。
- ② 提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選ぶこと。
- ③ 学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えること。
- ④ 仲間やグループで分担した役割に関する成果や改善すべきポイントについて自己の活動を振り返ること。
- ⑤ 体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習や発表を行う方法を見付け、仲間に伝えること。

- (4) 次の図は、鉄棒運動、跳び箱運動、平均台運動、マット運動の技である。図と技名の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- | | | | |
|------------|--------------|-------------|--------|
| ① ア 踏み越し下り | イ 前方屈腕倒立回転跳び | ウ 前後開脚跳び | エ 後転倒立 |
| ② ア 踏み越し下り | イ 頭はね跳び | ウ 前後開脚跳び | エ 伸膝後転 |
| ③ ア 支持跳び下り | イ 頭はね跳び | ウ 片足前跳び片足立ち | エ 後転倒立 |
| ④ ア 踏み越し下り | イ 前方屈腕倒立回転跳び | ウ 片足前跳び片足立ち | エ 伸膝後転 |
| ⑤ ア 支持跳び下り | イ 前方屈腕倒立回転跳び | ウ 片足前跳び片足立ち | エ 後転倒立 |

(5) 次の文は、「陸上競技ルールブック2023」(日本陸上競技連盟)の、リレー競技に関する記述である。適切でないものを、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① もしバトンを落した場合、落とした競技者がバトン拾って継続しなければならない。この場合、競技者は距離が短くならないことを条件にバトン拾うために自分のレーンから離れてもよい。
- ② バトン落とした時、バトンが横や進行方向(フィニッシュラインの先も含む)に転がり、レーンから離れて拾い上げた後は、競技者はバトン落とした地点に戻ってレースを再開しなければならない。
- ③ バトンパスが開始され、バトンパスが完了していない状態でバトン落とした場合には、バトンは渡し手(前走者)が拾わなくてはならない。
- ④ バトンパスが完了し、受け手(後走者)が唯一の保持者となった後にバトン落としたら、受け手が拾わなくてはならない。
- ⑤ バトンの受け渡しは、受け取る競技者にバトン触れた時点で始まり、受け取る競技者の手の中に完全に渡り、唯一のバトン保持者となった瞬間に成立する。それはあくまでもテイク・オーバー・ゾーン内での競技者の胸(トルソー)の位置のみが決定的なものであり、バトンの位置ではない。

38

(6) 次の文は、陸上競技の規則についての記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 400mまでの競走では、クラウチングスタートを用い、走者は「位置について(On your marks)」「用意(Set)」の後に、ピストルの合図によりスタートする。
- ② 混成競技以外のトラック種目では、1回目の不正スタートで失格となる。
- ③ ハードル走では、ハードルをわざと手や足で倒した場合は失格となるが、故意でなければ何台倒しても失格にならない。
- ④ 走り幅跳びでは、着地のときに、片足が砂場内、もう片方の足が砂場外に着地しても、無効試技とはならない。
- ⑤ 走り高跳びでは、競技中に最高の高さを跳んだ者から順位を決めるが、同記録の時は、最後に超えた高さで試技数の最も少なかった者が勝者となる。

39

- (7) 次の文は、「競泳競技規則」(日本水泳連盟)に示されている記述である。文中の下線部 a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

背泳ぎでは、折り返し動作中を除き、競技中は常におおむけの姿勢で泳がなければならない。おおむけの姿勢とは、頭部を除き、肩の回転角度が水面に対し、a 90度未満であることをいう。

平泳ぎでは、スタート後、折り返し後の一かき目は完全に脚のところまで持っていくことができる。その間泳者は水没状態であってもよい。スタート後、折り返し後に、最初の平泳ぎの蹴りの前にバタフライの蹴りが、b 3回許される。

バタフライでは、スタート後、折り返し後は、体は完全に水没していてもよいが、壁から c 15m 地点までに、頭は水面上に出なければならない。

- ① a × b × c ○
 ② a ○ b × c ○
 ③ a ○ b × c ×
 ④ a ○ b ○ c ○
 ⑤ a × b ○ c ×

40

- (8) 次の文は、「学校体育実技指導資料第4集水泳指導の手引(三訂版)」(文部科学省)に示されている水泳の平泳ぎの脚の動作と腕の動作に関する記述である。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 両足先をそろえて伸ばした状態から、両膝を引き寄せながらなるべく大きく開き、同時に足の裏を上向きにして踵を尻の方へ引き寄せる。
 ② けり始めは、親指を外向きにし、土踏まずを中心とした足の裏で水を左右後方に押し出し、膝が伸びきらないうちに両脚で水を押し挟み最後は両脚を揃えてける。
 ③ 両手のひらを胸の前で上向きにそろえ、腕の前、あごの下から水面と平行に前方へ出す。
 ④ 両手のひらを斜め内向きにして左右に水を押し開きながら腕を曲げ、手のひらと前腕を後方に向ける。
 ⑤ 両肘が胸の横にくるまで手をかき進めたら、両腕で内側後方に水を押しながら胸の前で揃える。

41

(9) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の内容における球技の「学びに向かう力、人間性等」の例示についての記述の一部である。第1学年及び第2学年の例示として適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 球技の学習に積極的に取り組もうとすること。
- ② マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとすること。
- ③ 作戦などについての話合いに参加しようとする事。
- ④ 練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとする事。
- ⑤ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを大切にしようとする事。

42

(10) 次の文は、バスケットボールのルールに関する記述である。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 制限区域に攻撃側のプレイヤーが5秒以上とどまるとバイオレーションとなる。
- ② コントロールしたボールを、フロントコートへ進めたチームのプレイヤーが、そのボールをバックコートに返したときは、ホールディングとなる。
- ③ フリースローシューターが、フリースローラインを踏んでも、ラインを越えなければ、バイオレーションにはならない。
- ④ バスケットに向かってドライブした攻撃側プレイヤーが、ノーチャージセミサークル内にいる守備側プレイヤーに突き当たった場合は、チャージングとはならない。
- ⑤ 両チームのプレイヤーが同時に最後にボールに触れてボールがアウトになった場合は、バックコートのチームのスローインになる。

43

(11) 次の文は、サッカーにおけるフリーキックのルールに関する記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 相手を蹴る、または蹴ろうとするプレイに対しては、相手チームに対し直接フリーキックが与えられる。
- ② 相手の前で高く足を上げるなどの危険な方法でプレイに対しては、相手チームに対し直接フリーキックが与えられる。
- ③ 相手に対し、肩と肩同士以外の不正なチャージをした場合は、相手チームに対し直接フリーキックが与えられる。
- ④ 相手をつまずかせる、またはつまずかせようとするプレイに対しては、相手チームに対し直接フリーキックが与えられる。
- ⑤ オフサイドを起こした場合は、相手チームに対し間接フリーキックが与えられる。

44

(12) 次は、ラグビーに関するプレイの内容とその名称である。プレイの内容と名称の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ア 相手のパスを横取りすること
- イ タックル直後に防御側のプレイヤーがボールを奪おうとすること
- ウ タックルにくるプレイヤーを、ボールを持っていない方の片手で阻むこと
- エ 方向転換のためにボールを持ったプレイヤーが交差して走る味方にパスすること

- A シザース
- B ハンドオフ
- C ジャッカル
- D インターセプト

- ① アーA イーB ウーC エーD
- ② アーD イーB ウーC エーA
- ③ アーD イーC ウーB エーA
- ④ アーA イーC ウーD エーB
- ⑤ アーA イーB ウーD エーC

45

(13) 次の文は、ハンドボールのルールに関する記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ボールを支配しているチームがわざと攻撃しないでシュートのチャンスを作らず、チャンスがあってもシュートをせずにパスを繰り返すようなプレイをパッシブプレーという。
- ② コートプレイヤーの体の一部分でもゴールエリアに触れれば、ゴールエリアへ侵入したことになる。
- ③ ゴールエリアへ侵入して相手の得点チャンスを阻止した場合は、相手チームの7 mスローになる。
- ④ 手からボールを離さずに、片手から片手に持ち替えることはできない。
- ⑤ ボールは主に手で扱うが、膝から上の部分で扱っても反則にならない。

46

(14) 次の文は、卓球のルールに関する記述である。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 両者の得点の合計が20点以上であれば、促進ルールは適用されない。
- ② サービスでは、ボールを手のひらに一度静止し、コートより高い位置から回転を与えないようにして、ほぼ垂直に10 cm以上投げ上げる。
- ③ サービスが開始されてからボールが打たれるまで、ボールはコートより高い位置でかつ、エンドラインの後方になければならない。
- ④ サービスがネットアンセンブリに触れてコートに入った場合は、2回だけやり直しができる。
- ⑤ 1ゲームが終わるごとにエンドを交替する。最終ゲームは一方が7点を先取したときに交替する。

47

(15) 次の文は、バドミントンのサービス時のフォルトになる場合の記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① サービスでシャトルが打たれるまで、サーバーとレシーバーの片足の一部分が、静止の状態でコート面についていないとき。
- ② シャトルの最初の接触点がコルクでなかったとき。
- ③ ラインクロスをしたとき。
- ④ 一度サービスの構えに入ってから、相手を惑わす行為をしたとき。
- ⑤ パートナーがサーバーやレシーバーを相手から見せないように構えたとき。

48

- (16) 次の文は、ソフトテニスの成り立ちに関する記述である。正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

日本へは1878年に硬式テニスが紹介されたが、当時のテニス用具は輸入品しかなく、非常に高価で広まらなかった。そこで、a坪井玄道が安価で手に入れやすいボールの開発に着手し、1890年に日本初の国産ゴムボールがつくられた。これが日本発祥のソフトテニスの始まりとされている。軽いラケットとゴムボールを使用するので、bローンテニスと呼ばれていたが、国際化を目指して1992年に正式に「ソフトテニス」に名称が変更された。その後、1994年広島でのcアジア競技大会で正式種目に採用された。

- ① a ○ b × c ○
- ② a × b ○ c ○
- ③ a × b × c ×
- ④ a ○ b ○ c ○
- ⑤ a × b ○ c ×

49

- (17) 次の文は、6人制バレーボールのルールに関する記述である。適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ボールは、足首から上の体のどの部分に触れてもよい。
- ② 相手コートから入ってきた最初のボールを直接レシーブする場合、同一動作の中であっても連続的にボールに触れてはいけない。
- ③ ブロックに触れたときは、ブロック以外に2回までプレイできる。
- ④ 同じチームの2人のプレイヤーが同時にボールに触れたときは、ブロッキングの場合のほかは2回のタッチに数えられる。
- ⑤ ネットに打ち込んだネットボールは、サービスボール以外なら、床に落ちる前に他の選手がカバーしてもよいが、ネットに触れたので2回以内に返球しなければならない。

50

(18) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の内容における「武道 柔道(第1学年及び第2学年)」の基本動作と受け身についての記述の一部である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 姿勢と組み方では、相手の動きに応じやすい自然体で組むこと。
- ② 崩しでは、相手の動きに応じて相手の体勢を不安定にし、技をかけやすい状態をつくること。
- ③ 進退動作では、相手の動きに応じたすり足、歩み足及び継ぎ足で、体の移動をすること。
- ④ 体さばきでは、相手の動きに応じて歩み足や送り足をすること。
- ⑤ 後ろ受け身では、あごを引き、頭をあげ、両方の腕全体で畳を強くたたくこと。

51

(19) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)の内容における「武道 剣道」の技の名称と内容の記述の一部である。適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ア 最初の面打ちに相手に対応したとき、隙ができた面を打つこと。
- イ 相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つこと。
- ウ 相手が小手を打つとき、体をかわしたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打つこと。
- エ 相手が打とうとして竹刀の先が上下に動いたとき、隙ができた面を打つこと。

- A 出ばな技
- B 抜き技
- C 引き技
- D 二段の技

- ① アーA イーB ウーC エーD
- ② アーD イーB ウーA エーC
- ③ アーD イーC ウーB エーA
- ④ アーD イーC ウーA エーB
- ⑤ アーA イーB ウーD エーC

52

- (20) 次の図は、フォークダンスの組み方である。組み方と名称の組合せで適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

著作権保護の観点から
掲載いたしません。

- A クローズドポジション
- B オープンポジション
- C プロムナードポジション
- D バルソビアナポジション

- ① アーA イーB ウーC エーD
- ② アーD イーB ウーA エーC
- ③ アーA イーC ウーB エーD
- ④ アーD イーC ウーA エーB
- ⑤ アーA イーB ウーD エーC

- (21) 次の文は、「学校体育実技指導資料第9集 表現運動系及びダンス指導の手引」(文部科学省)における、表現系ダンスについての記述である。下線部a～cの正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

「表現系ダンス」は、1920年代に確立された「aリズムダンス」に由来し、一人一人の個性に応じて創造的なダンスで表したいイメージや思いを自由な動きで踊ります。「リズム系ダンス」は、1950年代に現れたロック(ロックンロール)や近年のストリートダンスを背景とするヒップホップなど、b激しさが主体のリズムに乗って全身で踊るダンス(アフリカンダンスの原初的なリズムと動きに由来すると考えられている)の総称であり、人々を踊りに誘う「c律動の快感」があります。ですから、これらの「表現系ダンス」「リズム系ダンス」は世界の人々に共通して楽しまれているダンスと言えます。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ○ | b | × | c | × |
| ② | a | ○ | b | ○ | c | × |
| ③ | a | × | b | × | c | ○ |
| ④ | a | ○ | b | ○ | c | ○ |
| ⑤ | a | × | b | ○ | c | × |

【6】 体育理論に関する内容について次の問に答えよ。

- (1) 次の文は、「中学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成29年7月 文部科学省)における第1学年及び第2学年の「体育理論」の「運動やスポーツの多様性」の知識の内容についての記述の一部である。下線部 a ～ c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

運動やスポーツは、体を動かしたり健康を維持したりするなどの必要性及び、協力し合うことや課題を達成することなどの楽しさから生みだされ発展してきたこと。

運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えること及び、調べることなどの多様な関わり方があること。

世代や機会に応じて、生涯にわたって運動やスポーツを楽しむためには、自己に適した多様な楽しみ方を見付けたり、工夫したりすることが大切であること。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | a | ○ | b | × | c | × |
| ② | a | × | b | × | c | ○ |
| ③ | a | × | b | × | c | × |
| ④ | a | ○ | b | ○ | c | ○ |
| ⑤ | a | × | b | ○ | c | × |

- (2) 次の文は、「高等学校学習指導要領解説 保健体育編」(平成30年7月 文部科学省)における「体育理論」の「スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展」の知識の内容についての記述の一部である。下線部 a ～ c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

現代のスポーツは、オリンピックやパラリンピック等の国際大会を通して、国際親善や世界平和に大きな役割を果たし、共生社会の実現にも寄与していること。また、ドーピングは、a オリンピックムーブメントの精神に反するなど、能力の限界に挑戦するスポーツの文化的価値を失わせること。

現代のスポーツは、経済的な波及効果があり、スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていること。また、スポーツの経済的な波及効果が高まるにつれ、スポーツの b 高潔さなどが一層求められること。

スポーツを行う際は、スポーツが環境や社会にもたらす影響を考慮し、多様性への理解や、c 持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動が求められること。

- ① a ○ b × c ×
- ② a × b × c ○
- ③ a ○ b × c ×
- ④ a × b ○ c ○
- ⑤ a ○ b ○ c ×

56

- (3) 次の文は、オリンピックやパラリンピックに関する記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① オリンピックを創始したのは、ピエール・ド・クーベルタンであり、スポーツによる青年たちの国際交流が世界平和に貢献すると主張した。
- ② オリンピックは、古代に行われていた競技会を参考にして始められた。この競技会は、オリンピックという4年間を1周期とする古代の暦の単位で開催されていた。そのため、夏の大会の正式名称はオリンピック競技大会という。
- ③ オリンピックの3つの価値は、卓越、友情、敬意/尊重である。
- ④ パラリンピックの4つの価値は、勇気、強い意志、インスピレーション、公平/平等である。
- ⑤ 赤・青・黄の3色からなるパラリンピックのシンボルマークは、スリーアギトスという。

57

- (4) 次の文は、パラリンピック以外の障害者を対象としたオリンピックについて説明しているものである。
下線部 a～c の正誤の適切な組合せを①～⑤から選び、番号で答えよ。

競技にともなう各種合図を視覚的に工夫する以外は、オリンピックと同ルールで競技を遂行している競技会がデフリンピックである。1986年にIPCの前身団体に参加していたが、当初から、a 祭典性を追求していたことを背景に1995年にはIPCから脱退した。

さまざまなスポーツ種目を通したトレーニングと成果を発表する機会として開催されている競技会がスペシャルオリンピックスである。この競技会では、b 最下位者を表彰するという特徴がある。知的障害のあるアスリートとパートナーの健常者が混合チームをつくり、練習や試合を行う、c ユニファイドスポーツという取り組みがある。

- ① a ○ b × c ×
- ② a × b ○ c ○
- ③ a × b × c ×
- ④ a ○ b ○ c ○
- ⑤ a × b × c ○

58

- (5) 次の文は、アダプテッドスポーツに関する記述である。適切でないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① ルールや用具、補助などで障害者や高齢者、子供などにも適合したスポーツを、アダプテッドスポーツという。
- ② アダプテッドスポーツは、誰もが得点や勝敗に同じように関わることができるようにルールなどが工夫されていることから、ユニバーサルスポーツと呼ばれることもある。
- ③ ブラインドサッカーは、5人制競技で二つの区分がある。全盲の選手がアイマスクをし、音の出るボールを使用する「ブラインドサッカー」と、弱視の選手が音の出ないボールを使用する「ロービジョンフットサル」と呼ばれるものである。
- ④ 車いすバスケットボールは、バスケットボールと同じ広さのコート、同じ高さのゴール、同じボールを使うなど共通点が多い。車いすバスケットボールでも、ボールを保持したまま車イスを3回以上こぐとトラベリングの反則になる。
- ⑤ シットイングバレーボールは、座位で床に臀部の一部が接触したままプレイすることが特徴である。アタック、サーブ等の際に立ち上がった跳びはねたりしてはいけないが、ブロックするときだけ臀部が床から離れることが許されている。

59

- (6) 次の文は、高校入学年次の次の年次の体育理論「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」の授業後に振り返りを記入した、生徒のワークシートの内容である。生徒同士でワークシートを交換し、コメントを書く活動において、生徒同士のアドバイスの内容として適切ではないものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

私は、体育理論の授業で運動やスポーツの効果的な学習の仕方について学びました。陸上競技や水泳、体操競技はオープンスキルという分類になることを初めて知りました。私は、部活動でバスケットボールをやっているので、クローズドスキルの技能を高めていることになります。技能の上達過程には、自動化の段階から始まり、試行錯誤の段階、意図的な調整の段階と3つの段階をたどっていきます。

バスケットボールでは、相手の特徴を分析して、どのような戦術を適用するか計画を立てる戦略が重要になってきます。また、個人の技能を高めるために練習をしても、なかなか成果が現れないときがあります。練習を続けて技能が向上すると、次の段階に進むまでに一時的な低下があって、それをスランプといいます。その要因として、身体的要因や用具的要因、心理的要因など様々なことが考えられるということが理解できました。

- ① 陸上競技や水泳、体操競技はクローズドスキルです。
- ② バスケットボールは球技なので、オープンスキルです。
- ③ どのような戦術を適用するのか、あらかじめ計画を立てておくことは作戦です。
- ④ 技能の上達過程は、試行錯誤の段階、意図的な調整の段階、自動化の段階という3つの段階をたどります。
- ⑤ 技能の上達過程にみられる停滞現象で、次の段階に進むまでの一時的な低下を、プラトーといいます。

中高保健体育

正答・配点一覧表案

問番号（全 60 問）	解答 番号	正答	配点 （各 2 点）
午前【1】（1）	1	⑤	2
（2）	2	①	2
（3）	3	⑤	2
【2】（1）	4	①	2
（2）	5	②	2
（3）	6	②	2
（4）	7	⑤	2
（5）	8	③	2
（6）	9	①	2
（7）	10	①	2
（8）	11	②	2
（9）	12	③	2
（10）	13	③	2
【3】（1）	14	④	2
（2）	15	⑤	2
（3）	16	④	2
【4】（1）	17	①	2
（2）	18	④	2
（3）	19	③	2
（4）	20	⑤	2
（5）	21	①	2
（6）	22	②	2
（7）	23	⑤	2
（8）	24	④	2
（9）	25	③	2
（10）	26	①	2
（11）	27	①	2
（12）	28	②	2
（13）	29	③	2

(14)	30	⑤	2
(15)	31	③	2
(16)	32	③	2
(17)	33	①	2
【5】(1)	34	⑤	2
(2)	35	②	2
(3)	36	④	2
(4)	37	①	2
(5)	38	⑤	2
(6)	39	④	2
(7)	40	②	2
(8)	41	②	2
(9)	42	⑤	2
(10)	43	④	2
(11)	44	②	2
(12)	45	③	2
(13)	46	④	2
(14)	47	③	2
(15)	48	①	2
(16)	49	①	2
(17)	50	④	2
(18)	51	④	2
(19)	52	③	2
(20)	53	②	2
(21)	54	③	2
【6】(1)	55	②	2
(2)	56	④	2
(3)	57	⑤	2
(4)	58	⑤	2
(5)	59	⑤	2
(6)	60	⑤	2